海外だより

オーストラリア数量気象研究センター滞在報告

土屋　喬*

筆者は，メルボルンのオーストラリア気象局（以下単に気象局と言う）の建物内にあるオーストラリア数量気象研究センター（Australian Numerical Meteorology Research Centre, 以下 ANMRC と略記する）に1年間滞在する機会を得た．ANMRC については，所属する研究者の論文を通じて知る以外に情報が少ないと思われることおよび筆者が滞在中にお世話になった ANMRC の全職員に対する感謝の意も込めて，その組織や研究員のことなどについて簡単に紹介したい．第1図は ANMRC の正面入口で，日本の静止気象衛星「ひまわり」の大きな画像が掲示されている．

ANMRC は気象局と連邦科学産業研究庁（Commonwealth Science and Industry Research Organisation, 通称 CSIRO）の共同機関で，消耗品は気象局から，諸設備は CSIRO から支給される．現在の所長は，Dr. D.J. Gauntlett で，30才半ばの若さである．スタッフは総勢約35人，このうち研究員は約20人で，気象局および CSIRO からほぼ同数の人々が派遣されている．研究員は海外派遣の機会が多く，1～2人は中・長期の在外研究員として国外の研究者との交流および最新の知識の吸収に努めている．反面，国内・外からの研究者も受け入れている．メルボルンとその近郊には，オーストラリアの全気象学者の約70%が集まっており，各大学・気象局・CSIRO・ANMRC 相互の交流も盛んで，自由参加のセミナーが会場持ち廻りで毎週開催される．

ANMRC には，中期予報（Medium Range Prediction），地域およびメソスケール予報（Regional and Mesoscale Prediction），解析研究（Diagnostic Studies），熱帯（Tropical），気候研究（Climate Research）のグループがある．各研究員は，何れか一つのグループに属し，その中にチーフ（スーパーバイザー）が置かれる．中期予報グループでは，チーフ Dr. W.K. Bourke の下に，気象局の現業で用いられるスペクトルモデルの開発や改良および半球規模の現象の数値シミュレーションなどを行なっている．所長をチーフとする地域およびメソスケール予報グループでは，オーストラリア領域におけるプリミティブモデルの開発や改良および領域移動ファインメッシュモデルの開発等に力が注がれている．筆者が所属していた解析研究グループは，各種スケールの気象現象の解析や気候変動に関する解析的研究を行っており，チーフは Mr. N. A. Streten である．熱帯グループのチーフは Dr. B.J. McAvaneyで．気象局の現業で使用される熱帯域の解析スキームの開発などを行っている．Mr. B.G. Hunt は気候研究グループのチーフで，ここでは気候変動や大気大循環に関する数値シミュレーションなどを行っている．この様に，ANMRC における研究・開発の内容は多岐にわたっており，特に実際に即した面も多く含んでいる．このため，ANMRC の機能に対する社会的な要請が変化すれば，当然，現在のグループは再編成される．研究員は所属するグループの設置目的に適合する課題についての研究を続ける一方，任意の課題に関する研究を行なうことは自由であり，また，ANMRC 内・外の研究者との共同研究も盛んである．訪問中の研究員も含めた ANMRC の全研究員は，隔週開催されるミーティングの席上，順番に自分の研究内容を発表する義務がある．これは，研究員相互の理解に基づく研究能率の向上および研究員とこれを支援する職員との協力体制を円滑に保つことを目的としている．一方，チーフは，一般の研究員と同様の研究を行なうこと以外に，ANMRC の運営に関する意志決定への参加やその他の業務が加わる．

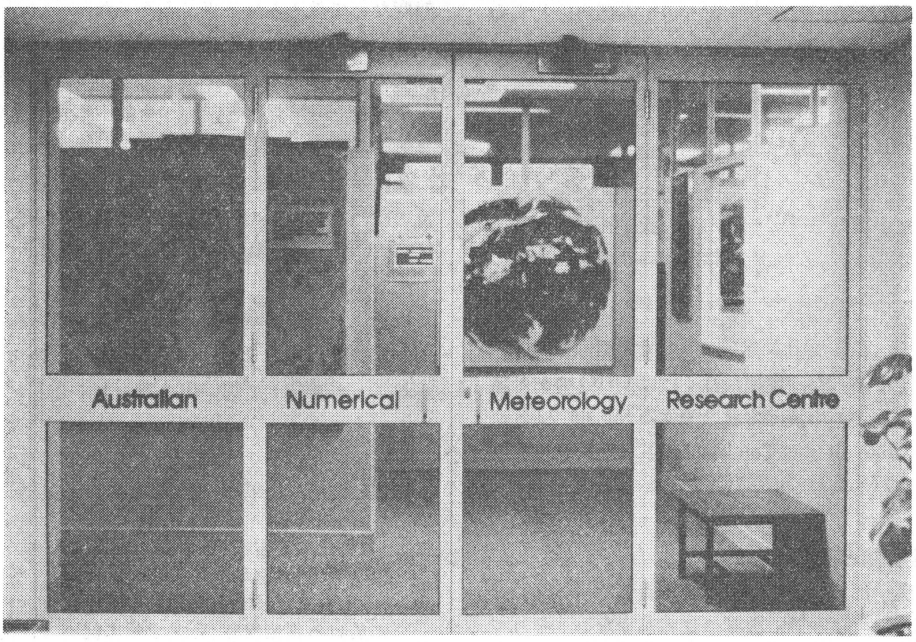
研究者を支援する職員は，作図などを行なう技術職員と計算機関係一切についての助言や完成したプログラムの管理などを行なう計算機システム職員が配置されている．更には，総務・会計事務を担当する職員，タイピスト兼所長秘書などが含まれる．

ANMRC は，規模は小さいながらも，研究者とこれ

（106頁に続く）

* Takashi Tsuchiya, 気象衛星センター解析課

Airplane, J. Met., 4, 201-202.
9. 寺田一彦, 1977：気象研究所三十年史, 104.
10. Report of Soler Eclipse Observation, May 9, 1948, Gcophysical Magzine, Vol. XIX, 57-203.
11. 寺田一彦, 1980：明治以降の日本の海洋学の発達, 海洋科学, 12, 213-231.



第1図　オーストラリア気象局の12階にある ANMRC の正面入口.

(107頁より続く)
を支援する職員がそれぞれの役割を充分に認識して協力し合いながら運営されている調和のとれた機関であり, 社会的要請にも応えながら着実に実績を積み重ねている研究所であると言えよう.